

削除現象：項削除を中心として

斎藤 衛

1. 序

- ★ 日本語文法から統語論へ：1980年代における移動現象、1990年代における削除現象の分析
- ★ 項削除をめぐる諸問題

<日本語削除現象分析の初期>

- A. VP 削除の欠如をめぐる (Kuno 1978, Hinds 1973)
- B. N' 削除 (Saito and Murasugi 1990)
- C. VP 削除再考 (Otani and Whitman 1991)
- D. スルーシング (Takahashi 1994)

<項削除分析の提案と展開>

- A. 項削除分析の提案 (Oku 1998, Kim 1999)
- B. 分析の展開 (Saito 2004, 篠原 2006, Takahashi 2008 他)
- C. 項削除をめぐるパラメーター (Saito 2007, Sener and Takahashi 2010, Takahashi 2014)

<日本語削除現象に関する諸問題>

- A. pro の分析他 (Hoji 1998, Saito 2007)
- B. スルーシング再考 (Takita 2009)
- C. VP 削除再考 (Funakoshi 2012, 2013)
- D. 分類辞句と N' 削除 (Watanabe 2010)

2. 日本語削除現象分析の初期

- (1) a. I left because John did [_{VP} leave]
b. *太郎が帰ったので、私も帰った
- (2) a. He said he would jump into the river, and jump into the river he did
b. *川に飛び込んだ、彼が(こと)

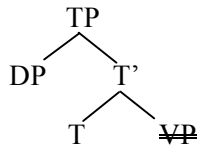
★ Hinds (1973) : 日本語における VP の欠如 ... Hale (1980) の非階層性分析へ

★ Kuno (1978) による VP 削除欠如の分析 ... do-support, 独立語としての助動詞、モーダルの欠如 (Saito 1985 ... VP スクランブリングへの適用)

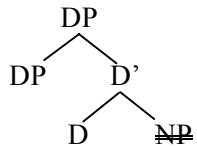
2.1. N' 削除 (Saito and Murasugi 1990)

<削除に関する一般化>

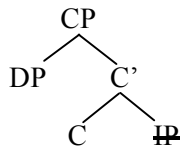
- (3) a. Can you read Russian? Yes, I can ~~[_{VP} read Russian]~~ ... VP 削除
 b. I wrote a book because John did ~~[_{VP} write a book]~~



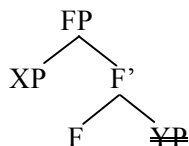
- (4) a. I read Bill's book, but I haven't read [_{NP} Mary's ~~[_{N'} book]~~] ... N' 削除
 b. Rome's destruction was worse than [_{NP} London's ~~[_{N'} destruction]~~]



- (5) a. *John has a dog, but Mary doesn't have [_{DP} a ~~[_{NP} dog]~~]
 b. *I want to read the book because I hear good thing about [_{DP} the ~~[_{NP} book]~~]
- (6) a. *I like Mary's green bag, but I don't like [_{DP} Bill's [_{NP} blue ~~[_{NP} bag]~~]]
 (cf. I like Mary's green bag, but I don't like [_{DP} Bill's ~~[_{NP} green [_{NP} bag]~~]])
- (7) a. John bought something, but I don't know [_{S'} what₄ [_S ~~he bought t₄~~]] ... スルーシング
 b. John knows [_{S'} which girl₆ [_S Mary likes t₆]], but he doesn't know [_{S'} which boy [_S ~~she likes t₈~~]]



- (8) a. *John said he saw a unicorn, but I don't know [_{CP} whether [_{TP} ~~he saw a unicorn~~]]
 (cf. John said he saw a unicorn, but I don't know [_{CP} whether [_{TP} he did [_{VP} ~~see a unicorn~~]]])
 b. *John denied that he cheated, but I believe [_{CP} that [_{TP} ~~he cheated~~]]



削除とは：機能範疇 F に指定部がある時に、F の補部を削除 (省略) することができる。
 (一般化であり、説明を要する。Lobeck 1990, Richards 2003 を参照。)

<代名詞の「の」と N'削除>

- (9) a. 太郎の本は、[花子の __] よりもおもしろい。
b. John's book is more interesting than [Mary's __]

- (10) a. 赤いのを三つください。
b. *Please give me three red(s).
c. Please give me three red ones.

- (11) a. [NP [AP 赤い] [N の]]
b. [NP 花子の [N の]] (奥津 1974)

- (12) 校長先生は、担任の先生に子供たちを座らせた。(?)

★ 神尾 (1983) : 「の」は抽象名詞に代用することができない。

- (13) a. *のをください。
b. Please give me one.
- (14) a. 役人は来ましたか。若いのが三人だけ来た。
b. #先生方はみえましたか。若いのが三人みえました。
- (15) a. 太郎は、野球帽をかぶっていた。次郎も、青いのかぶっていた。
b. *太郎も次郎も信念を持っている。特に太郎は、固いを持っている。

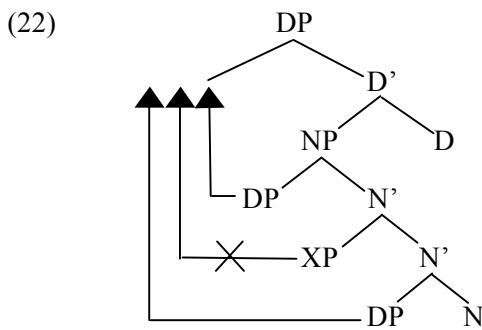
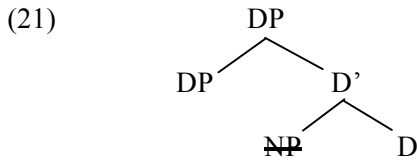
★ 神尾の考察をふまえた N' 削除有無の再検討

- (16) a. *太郎の研究に対する態度は、とてもよいのだった。
b. *花子のスポーツに対する情熱は、とてもはげしいのだった。
c. *山田先生のやさしさは、とても身にしみるのだった。
- (17) a. 太郎の信念は、次郎のよりも固い。
b. 太郎の研究に対する態度は、花子のに比べれば、とてもよい。
c. 花子のスポーツに対する情熱は、太郎の以上だ。
d. 山田先生のやさしさも、田中先生のも、とても身にしみる。

★ N' 削除分析を支持するさらなる証拠

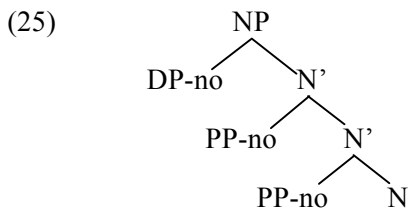
- (18) a. 太郎の態度は、花子のよりもよい。
b. ローマの破壊は、京都のより、悲惨だった。
c. *最近は、晴れの日が、雨のよりも多い。
d. *二切れのハムは夕食になるが、一切れのはならない。
e. *太郎は、一週間に三冊の本を読むが、花子は、五冊のを読む。

- (19) a. the barbarians' destruction of the city then
 b. the city's destruction then
 c. *then's destruction of the city
- (20) a. It seemed then that John was the best candidate.
 b. John seemed then to be the best candidate.
 c. *Then seemed that John was the best candidate.



★ 分析の帰結：(i) 日本語における機能範疇、(ii) 「挿入格」としての日本語属格
 (cf. Fukui 1988, Watanabe 2010)

- (23) a. [太郎の [友達との [ヨーロッパへの旅行]]]
 b. [花子の [無一文での [東京からの出発]]]
- (24) $[_{N/D}^b \text{ DP/PP } N/D^a] \rightarrow [_{N/D}^b \text{ DP/PP no } N/D^a]$ (Kitagawa and Ross 1982)



2.2. VP 削除とスルーシング (Otani and Whitman 1991, Takahashi 1994)

<V 上昇と VP 削除>

- (26) John loves his mother, and Bill does, too. --- 削除
 a. Bill loves John's mother. (ストリクト解釈)
 b. Bill loves his own mother. (スロッピー解釈)

(27) John loves his mother, and Bill loves her, too. --- 代名詞

a. Bill loves John's mother. (ストリクト解釈)

(28) 太郎は、自分の車を洗った。次郎も、洗った。

a. 次郎も太郎の車を洗った。 (ストリクト解釈)

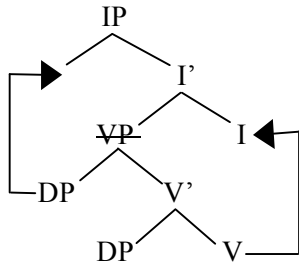
b. 次郎も自分の車を洗った。 (スロッピー解釈) (cf. Kuroda (1965) の pro 分析)

(29) 太郎は、自分の車を洗った。次郎も、それを洗った。

a. 次郎も太郎の車を洗った。 (ストリクト解釈)

(30) 太郎は、自分が入学する大学に行ってみた。花子も、(そこに) 行ってみた。

(31)



(32) 花子が自分の子供を入園させたので、桃子は退園させた。 (cf. McCloskey 1991)

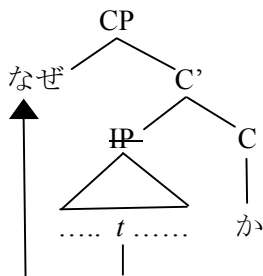
<随意的 wh 移動とスルーシング>

(33) 太郎は [なぜ自分がしかられたか] わかっていないが、花子は [なぜか] わかっている。

a. 花子は [なぜ太郎がしかられたか] わかっている。 (ストリクト解釈)

b. 花子は [なぜ自分がしかられたか] わかっている。 (スロッピー解釈)

(34)



(35) 太郎は [なぜ自分がしかられたか] わかっていないが、花子は [それがなぜか] わかっている。

a. 花子は [なぜ太郎がしかられたか] わかっている。 (ストリクト解釈)

<残された問題点>

(36) 太郎は [なぜ自分がしかられたか] わかっていないが、花子は [なぜだか] わかっている。

(37) 太郎は [なぜ自分がしかられたか] わかっていないが、花子は [(それが) なぜだか] わかっている。

★ なぜ、(36) はスロッピー解釈を許容するのだろうか。

- (38) a. 太郎がだれかから手紙を受け取ったが、僕はだれからかわからない。
 b. 太郎がだれかから手紙を受け取ったが、僕は花子からかどうかわからない。
- (39) 太郎がだれかから手紙を受け取ったが、僕は(それが)花子からかどうかわからない。

3. 項削除現象とその分析

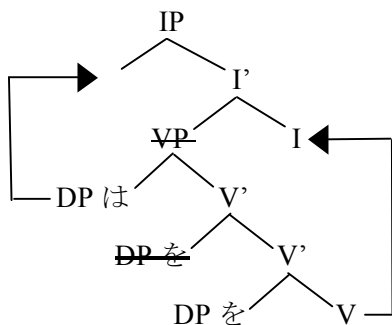
3.1. Oku (1998), Kim (1999) の提案と Saito (2004) のスルーシング再考

<主語の省略と副詞句の分布 ... Oku (1998)>

- (40) A. 花子は、自分の提案が採用されると思っている。
 B. 太郎も、[e] 採用されると思っている。
- (41) a. Mary examined the manuscript in detail, and Bill did, too.
 b. Mary examined the manuscript in detail. But Bill didn't.
- (42) a. 花子は丁寧に原稿を見直した。太郎もざっと見直した。
 b. 花子は丁寧に原稿を見直した。でも、太郎は見直さなかった。

<韓国語の二重対格構文 ... Kim (1999)>

- (43) a. Mike-nun James-lul tali-lul ketechassta
 ??太郎は、次郎を足を蹴った。
 b. *Mike-nun tali-lul James-lul ketechassta
 *太郎は、足を次郎を蹴った。
- (44) A. Jerry-nun caki-uy ai-lul phal-ul ttayliessta
 太郎は、自分の子供を腕を叩いた。
 B. Kulena Sally-nun [e] tali-lul ttayliessta
 でも、花子は、足を叩いた。



<スルーシングの項削除分析 ... Saito (2004)>

- (45) a. It is from Mary that John received a letter.
 b. 太郎が手紙をもらったのは、花子からだ (分裂文 — Hoji 1990, Murasugi 1991)
- (46) a. It is this book that John wrote.
 b. It is this book₅ [CP Op₅ that [IP John wrote t₅]]
- (47) a. [泥棒が昨日現金を盗んだの]は、この銀行(から)だ
 b. [太郎が[泥棒が昨日現金を盗んだと]言っていたの]は、この銀行(から)だ
- (48) [[昨日現金を盗んだ泥棒]が逮捕されたの]は、この銀行(*から)だ (Hoji 1990)
- (49) a. [太郎が書いた本]は、おもしろい
 b. [太郎が書いたの]は、おもしろい
- (50) a. [太郎が書いた本]は、この本だ
 b. [太郎が書いたの]は、この本だ
- (51) a. 着ている洋服が汚れている紳士 (Kuno 1973)
 b. かわいがっていた犬がしんでしまった子供
- (52) a. [太郎が出てきたドア]は、ここ(*から)だ
 b. [太郎が出てきたの]は、ここ(から)だ
- (53) a. [NP... の]₁は、NP₂だ — NP₁ = NP₂
 b. [NP... の]₁は、PP₂だ — *NP₁ = PP₂
 c. [CP Op₁ [IP... t₁...]の]₁は、PP₂だ — Op₁ = PP₂ (Murasugi 1991)
- (54) 太郎は[なぜ自分がしかられたか]わかっているが、花子は[なぜだか]わかっている

★ Nishiyama, Whitman and Yi (1996) の分裂文分析

- (55) a. 花子は、[[自分がしかられたの]がなぜ(だ)か]わかっている
 ↓
 pro
- b. 花子は、[[太郎がしかられたの]がなぜ(だ)か]わかっている
 ↓
 pro
- (56) 太郎は[なぜ自分がしかられたか]わかっているが、花子は[それがなぜだか]わかっている (ストリクト解釈のみ) ... 空の代名詞のみがスロッピー解釈を許容する。
- (57) 花子は、[[CP 自分がしかられたの]がなぜ(だ)か]わかっている

3.2. 削除分析批判／反批判 (Hoji 1998, 篠原 2004) および Takahashi 2008 の数量詞削除

<Hoji 1998 の *pro* 分析>

- (58) a. すべての日本人夫婦が 別々の学生を 推薦した。
 b. すべてのアメリカ人夫婦も (彼らを) 推薦した。 ((59b) の読みがない。)
- (59) a. Every Japanese couple recommended different students.
 b. Every American couple did, too.
 c. Every American couple also recommended them.
- (60) a. すべての一年生が 自分のボールを 蹴った。
 b. すべての二年生も [e] 蹴った
- (61) すべての二年生も (ボールを) 蹴った。 (不定代名詞の *pro*)
- (62) 太郎はりんごを三つ買い、花子は *pro* 五つ買った。

<Saito 2003 と 篠原 2004 の反批判>

- (63) a. 太郎は、自分の車を 洗った。
 b. でも、花子は [e] 洗わなかった (スロッピー解釈)
 c. でも、花子は (車を) 洗わなかった。
- (64) a. John (*even) threw the dishes, and Mary the glasses. (gapping)
 b. John (*never) ate pizza, and Mary sushi.

★ 焦点は省略できない。しかし、(58) は問題として残る。

- (65) a. 太郎と花子が 別々の学生を 推薦した
 b. $[\exists x,y: x, y \text{ students and } x \neq y]$ Taroo recommended x & Hanako recommended y
 (Carlson 1987 を参照。)
- (66) a. その旅館は (一日に) 3組以上のお客を泊めるが、あの旅館は [e] 泊めない
 b. その時、花子は何か買ったが、太郎は [e] 買わなかった
 c. その時、花子は何も買わなかったが、太郎は [e] 買った (篠原 2004)
- (67) a. John bought something, but Mary didn't.
 b. John didn't buy anything, but Mary did.

<Takahashi 2008 の数量詞削除>

- (68) A. 女子のだれかが ほとんどの先生を 尊敬している
 B. 男子のだれかも ほとんどの先生を 尊敬している (異なる「ほとんどの先生」OK)

- (69) A. ほとんどの先生を女子のだれかが尊敬している
 B. 男子のだれかも尊敬している
 (☺ と most の作用域関係は、同一でなければならない。)

★ Takahashi (2008) が注で述べているように、(68)において、異なる「ほとんどの先生」を許容しない話者もいる。(pro = 彼ら)

- (70) A. 3人以上の学生が台湾へ行った
 B. オランダへも行った (異なる「3人以上の学生」OK)
- (71) A. 3つ以上の会社をその筆頭株主が推薦した
 B. その社長も推薦した (pro = その3つ以上の会社?)

★ 演算子-変項関係を形成する要素は、項省略の対象とならないようである。この関連で、疑問詞の wh 句が削除されないことは興味深い。

- (72) A. だれが台湾へ行ったか知っていますか。
 B. いいえ。でも、*(だれが)オランダへ行ったかなら、わかります。

3.3. 項省略の LF コピー分析と ϕ 素性一致の欠如

<篠原 (2006) の LF コピー分析>

- (73) a. 花子は、[_{CP} 自分の提案が採用されると]思っているが、太郎は、[_{CP} e]思っていない。
 b. 太郎が [_{CP} 花子はその本を買ったと]言ったし、次郎も [_{CP} e]言った。
- (74) a. *本を₂太郎は [_{CP} 花子が t_2 買ったと]言ったし、雑誌を₆次郎は [_{CP} e]言った。
 b. *その本を₃太郎は [_{CP} 花子が t_3 買ったと]言ったし、その本を₃次郎も [_{CP} e]言った。
- (75) その本を₃太郎は [_{CP} 花子が t_3 買ったと]言ったし、次郎も [_{CP} e]言った。
- (76) John knows [_{CP} which boy₇ [_{TP} they chose t_7]], and Bill knows [_{CP} which girl₁₁ [_{TP} ~~they chose~~ t_{11}]]
- (77) その本を₃太郎は [_{CP} 花子が t_3 買ったと]言ったし、((74b)の PF 削除分析)
 その本を₃次郎も [_{CP} 花子が t_3 買ったと]言った
- (78) a. 太郎が花子に [_{CP} 次郎がだれに会ったか]教えたこと
 b. *太郎がだれに [_{CP} 次郎が花子に会ったか]教えたこと (Harada 1972)

★ Wh 句は、その作用域となる CP に含まれていなければならない。

- (79) a. Who₄ t_4 wonders [_{CP} what₁ [_{IP} John gave t_1 to whom]]
 b. Who₄ t_4 wonders [_{CP} [which picture of whom₅]₈ [_{IP} John bought t_8]]

c. ?? [Which picture of whom₅]₈ does John wonder [CP who₄ [IP t₄ bought t₈]]

- (80) a. 太郎が [CP 花子が 何を 買ったか] 知りたがっていること
 b. 何を₉ 太郎が [CP 花子が t₉ 買ったか] 知りたがっていること (Saito 1989)
- (81) a. 太郎が [CP みんなが [CP 花子が 何を 買ったと] 思っている か] 知りたがっていること
 b. ?[CP 花子が 何を 買ったと]₆ 太郎が [CP みんなが t₆ 思っているか] 知りたがっていること

(82) 何を₉ 太郎が [CP 花子が t₉ 買ったか] 知りたがっていること ((8b) の意味表示)

(83) a. *その本を₃ 太郎は [CP 花子が t₃ 買ったと] 言ったし、その本を₃ 次郎も [CP e] 言った。

b. [CP 花子が その本を 買ったと] (補文の意味表示)

*LF コピー

★ 従って、(73) の非文法性は、LF コピー分析を支持する証拠となる。LF コピー分析により、(74) の適格性にも説明が与えられる。

★ 項省略は、項のみに適用される。(Oku 1998) 従って、LF コピーは、項の位置に限定される。

(84) 花子はきれいに部屋の片付けをした。でも、太郎は部屋の片付けをしなかった。

★ 演算子 – 変項関係の形成

- (85) a. What did Mary buy
 b. {[For which x: x a thing], x} did Mary buy {[For which x: x a thing], x}
 c. {[For which x: x a thing], *x} did Mary buy {[For which x: x a thing], x}

- (86) A. だれが台湾へ行ったか知っていますか。 (= (72))
 B. いいえ。でも、*(だれが) オランダへ行ったかなら、わかります。

★ LF コピーは、主語の位置に適用される。

- (87) a. [For which x: x a person] x went to Taiwan
 b. *[For which x: x a person] went to Holland
 c. *x went to Holland

- (88) a. 太郎と花子が 別々の学生を推薦した。 (= (65a)) 次郎と秋子も 推薦した。
 b. [∃x,y: x, y students and x≠y] Taroo recommended x & Hanako recommended y
 c. 別々の学生 x [太郎と花子が x を推薦した]

★ QR の有無に関する問題

- (89) A. 3人以上の学生が台湾へ行った (= (70))
 B. オランダへも行った (異なる「3人以上の学生」OK)
- (90) a. More than three students went to Taiwan
 b. More than three students went to Holland
- (91) a. $[\exists \text{ more than three } x: x \text{ a student}] x \text{ went to Taiwan}$
 b. $*[\exists \text{ more than three } x: x \text{ a student}] \text{ went to Holland}$
 c. $*x \text{ went to Holland}$
- (92) A. 3つ以上の会社を そのの筆頭株主が 推薦した (= (71))
 B. そのの社長も 推薦した (pro = その3つ以上の会社?)
- (93) a. More than three companies_i its_i main stock holder recommended t_i (Dialect A)
 b. More than three companies_i its_i president also recommended t_i
- (94) a. $[\exists \text{ more than three } x: x \text{ a company}] x\text{'s main stock holder recommended } x$ (Dialect B)
 b. その3つ以上の会社は そのの社長も 推薦した
 those three companies_i [its_i president also recommended t_i]
 c. $[\forall x: x \in \text{those three companies}] x\text{'s president also recommended } x$

<項省略と ϕ 素性一致現象>

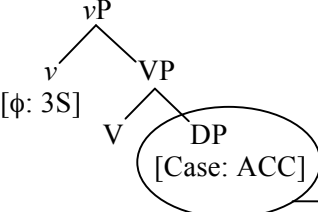
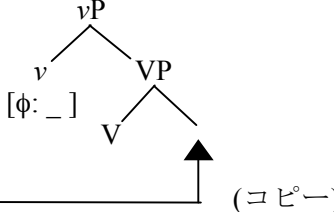
★ Chomsky (2000) on feature valuation

- (95) a. There are three tables in the room
 b. $\begin{array}{ccc} T & \dots\dots & DP \\ [\phi: _] & & [\text{Case: } _] \end{array} \rightarrow \begin{array}{ccc} T & \dots\dots & DP \\ [\phi: 3P] & & [\text{Case: NOM}] \end{array}$

(96) 活性化条件

- a. *英語: $\begin{array}{ccc} T & \dots\dots & DP \\ [\phi: _] & & [\text{Case: NOM}] \end{array}$
 b. 日本語: $\begin{array}{ccc} T & \dots\dots & DP \\ & & [\text{Case: NOM}] \end{array}$

★ Saito (2007): ϕ 素性一致が無い場合のみ、DP の項省略が可能であることが予測される。

- (97) a.  b. 

★ この仮説の下では、日本語文法格の新たな分析が必要となる。

★ Suner and Takahashi (2010) の検証：トルコ語における主語と目的語の非対称性

- (98) A. Can [*pro* anne-si]-ni eleştir-di
 John mother-3SG-ACC criticize-Past
 ‘John criticized his mother’
- B. Mete-yse ___ öv-dü (スロッピー解釈可)
 Mete-however praise-Past
 ‘Mete, however, praised her/his mother’
- (99) A. Can [[*pro* öneri-si]-nin kabul ed-il-eceğ-i]-ni düşün-üyor
 John proposal-3SG-GEN accept do-Passive-NM-3SG-ACC think-Pres.
 ‘John thinks that his proposal will be accepted’
- B. Aylin-se [___ redded-il-eceğ-i]-ni düşün-üyor (スロッピー解釈不可)
 Eileen-however reject-Passive-NM-3SG-ACC think-Pres.
 ‘Eileen, however, thinks that it will be rejected’
- (100) A. Pelin [[*pro* yeğen-i]-ni lise-ye başla-yacak] san-ıyor
 Pelin niece-3SG-ACC high.school-DAT start-Future think-Pres.
 ‘Pelin thinks her niece will start high school’
- B. Suzan-sa [___ ilkokul-a başla-yacak] san-ıyor (スロッピー解釈可)
 Susan-however grade.school-DAT start-Future think-Pres.
 ‘Susan, however, thinks she/her niece will start grade school’

4. (日本語) 削除現象分析の諸問題

4.1. *pro* の分布と PP/CP の省略

(101) 太郎はりんごを三つ買い、花子は *pro* 五つ買った。 (= (62))

(102) A. だれが自分自身を推薦したんですか。

B. 太郎も花子も [*e*] 推薦しました。 (cf. Xu (1986), Huang (1987))

(103) A. 太郎が [*e*] 推薦しました。

B. [*e*] 来た！

★ Murasugi (1991) ... *pro* は、場所や時を示す PP を含む項の位置に生起する。

(104) [[[*pro*_i 着ている] 洋服] が汚れている] 紳士_i (Kuno 1973, Perlmutter 1972)

- (105) a. [花子が [[(それを)_i 持っている] 人] を探している] 希少本_i ;
 b. [花子が [[(そこに)_i 住んでいる] 人] を知っている] 町_i ;
 c. [花子が [[*(それで)_i 首になった] 人] を知っている] 理由_i ;
- (106) A. 太郎は [自分の親の家に] 住んでいる
 B. でも、花子は [e] 住んでいない (cf. でも、花子は そこに 住んでいない)
- (107) A. 私は [太郎は 自分の失敗で 首になったと] 聞いている
 B. でも、[花子が 首になったと] は 聞いている
 (cf. でも、[花子が 自分の失敗で 首になったと] は 聞いている)

★ Saito (2007) ... *pro* も LF コピーにより説明される。(Heim 1982 の file-card semantics)

★ この仮説が正しければ、項省略分析と *pro* 分析はかなり類似している。また、この仮説は、*pro* が、豊富な情報を示す ϕ 素性一致、あるいは ϕ 素性一致の欠如により認可されるとする一般化に部分的な説明を与える。

<PP / CP の省略>

- (108) *John says [that she is a genius], but Bill does not think [e]

★ 無標の設定 : - 項の LF コピー
 肯定証拠 (DP の省略) → + 項の LF コピー

4.2. スルーシング、VP 削除、N' 削除をめぐって

<Takita (2009)>

- (109) 太郎は [自分が どこで 叱られたか] 知っているが、花子は [どこで (だ) か] 知らない
- (110) a. 花子は [CP どこで [_{TP} 自分が叱られた] か] 知らない (Takahashi 1994)
 b. 花子は [CP [_{TP} [_{CP} 自分が叱られたの] が どこで (だ)] か] 知らない (Saito 2004)
- (111) 太郎は [どこかへ行こうと] 思っているが、[どこへ (*だ) か] 迷っている
 a. *[それが どこへだか] 迷っている
 b. *[行くのが どこへだか] 迷っている
- (112) [CP どこへ [_{TP} ~~PRO~~ 行く] か] 迷っている
- (113) a. 太郎は どこかへ行ったが、僕は 東京へ (だ) かどうか知らない
 b. 僕は [CP [_{TP} [_{CP} 太郎が行ったの] が 東京へ (だ)] か] かどうか知らない
 (Takahashi 1994, Nishiyama, Whitman and Yi 1996)

- (114) a. *太郎は [どこかへ行こうと] 思っているが、 [東京へかどうか] 決めかねている
 b. *John plans to go somewhere, but he hasn't decided whether to Tokyo

★ 日本語に随意的な wh 移動とスルーシングがあるとする Takahashi (1994) の主張は正しい。

<Funakoshi (2012, 2013)>

- (115) a. すべての日本人夫婦が 別々の学生を 推薦した。 (= (58)、Hoji 1998)
 b. すべてのアメリカ人夫婦も (彼らを) 推薦した。
- (116) a. その旅館は (一日に) 3 組以上のお客を泊めるが、あの旅館は [e] 泊めない
 b. その時、花子は何か買ったが、太郎は [e] 買わなかった
 c. その時、花子は何も買わなかったが、太郎は [e] 買った (= (66)、篠原 2004)
- (117) A. 太郎は 花子とだけ 遊べる (only > can)
 B. *次郎も [e] 遊べる

- (118) 次郎も [_{FocP} 花子とだけ [_{VP} 遊ぶ]] 遊べる

★ 「花子とだけ」が演算子-変項関係を形成するとすれば、この例も項位置への LF コピー分析によって説明が与えられる。

- (119) a. 太郎は [スペイン語かフランス語] を 話さない (or > not)
 b. 花子は [スペイン語もフランス語も] 話さない (and > not) (Goro 2007)
- (120) a. 花子は [スペイン語かフランス語] を 話すが、太郎は [e] 話さない (not > or)
 b. 花子は [スペイン語もフランス語も] 話すが、太郎は [e] 話さない (and > not, not > and)

★ 可能な読みは、*pro* = その二言語 と分析しうる。(120a)における ‘or > not’ の欠如は、(117)と同様に考えられる。(cf. Shibata 2013)

<項と付加句の分布について>

- (121) a. 太郎は 果物を りんごしか 食べなかった (Aoyagi and Ishii 1994)
 b. 太郎は 果物を 三種類 食べた
 (Reinhart 1991 の ‘except’ の分析、Rooth 1992 の焦点変域)
- (122) a. ??花子は 太郎を 腕を 叩いた (Kuroda 1988)
 b. [花子が 太郎を 叩いたの] は 腕を (三か所) だ
- (123) a. ??太郎が その教科書を 第一章を だけ 読んだ (青柳 2006)
 b. [太郎が その教科書を 読んだの] は 第一章を (半分) だけだ

- (124) a. ??花子が 果物を りんごを三つ 食べた
 b. [花子が 果物を 食べたの] は りんごを三つだ
- (125) a. ??日本から 名古屋からだけ 参加者が あった
 b. [日本から 参加者が あったの] は 名古屋からだけだ
- (126) a. ??太郎は 友達と 花子とだけ 遊べる
 b. [太郎が 友達と 遊べるの] は 花子とだけだ
- (127) a. 花子は 果物を みかんもりんごも 食べた
 b. [花子が 果物を 食べたの] は みかんかりんごを一個 (だけ) だ

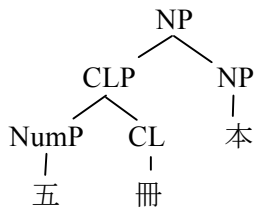
★ ‘XP-α YP-α’ において、YP は焦点、XP はその変域として解釈される。

<Watanabe 2010>

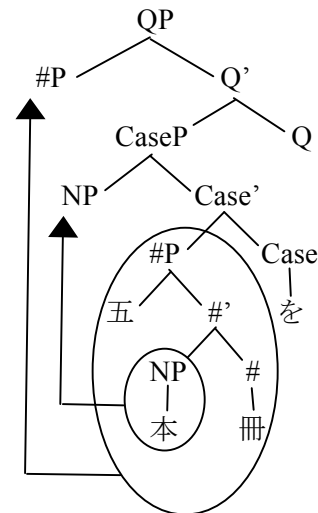
(128) *太郎は、一週間に [三冊の本] を読むが、花子は、[五冊の __] を読む (= (18e))

(129) 太郎は [三冊の本] を買ったが、花子は [五冊 __] を買った

(130) a.



b.



(131) John weighs 150 lb.

- (132) a. 太郎は チョムスキーの本の 2 冊を読み、花子は 3 冊を読んだ
 b. 太郎は ビール 5 リットルに触り、花子は 7 リットルに触った
- (133) a. 太郎は 5 リットルのビールを飲み、花子は 7 リットルを飲んだ
 b. #太郎は 5 リットルのビールに触り、花子は 7 リットルに触った
- (134) ビールの 5 リットルは、水の 3 リットルよりも飲みやすい

★ 奥津 (1974): 「だ」の連体形としての「の」 (cf. Watanabe 2010 のリンカー)

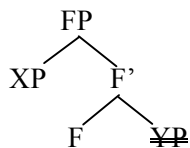
- (135) a. 太郎が会長の / である 学会
 b. 太郎が主人公の / である 物語 (Watanabe 2010)
- (136) a. 学部生の先生への依存
 b. ??その依存は 先生へだ
- (137) a. 親への依存はよいが、先生へのはよくない
 b. 鈴木君からの心遣いも、田中君からのものも、とてもありがたかった
- (138) 東京から *(の) 出発 「東京から」は項であると考えられるが、属格を必要とする。
- (139) a. 明日台風が来るとの情報
 b. *明日台風が来るとである情報

4.3. 省略の対象

- (140) a. すべての統語的・意味的単位
 b. 最大投射
 c. phase (DP, CP, vP, ...)
 d. Transfer の単位 (NP, TP, VP, ...)

★ すべてのケースについて、形態的、統語的、意味的要件を満たすかどうかチェックする必要がある。

<EPP と Saito and Murasugi (1990), Lobeck (1990) の一般化>



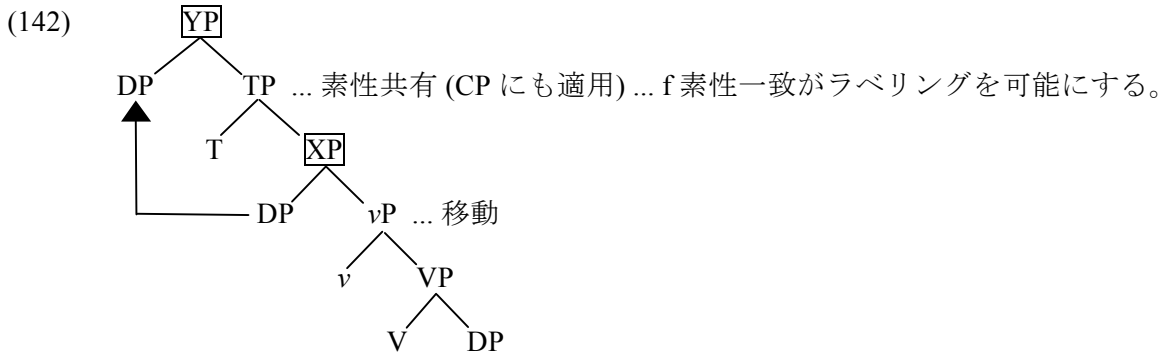
削除とは：機能範疇 F に指定部がある時に、F の補部を削除 (省略) することができる。

★ Richards (2003)：線状化に基づく分析の可能性

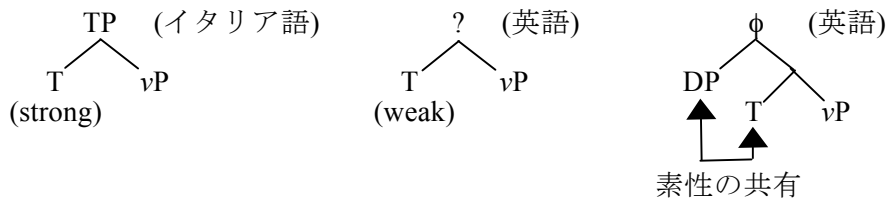
Transfer された単位および省略された要素は、内部構造が不可視的になる。

★ Labeling に基づく分析の可能性

- (141) a. $\gamma = \{H, \beta P\}$
 b. $\gamma = \{\alpha P, \beta P\}$
 c. $\gamma = \{H, H\}$



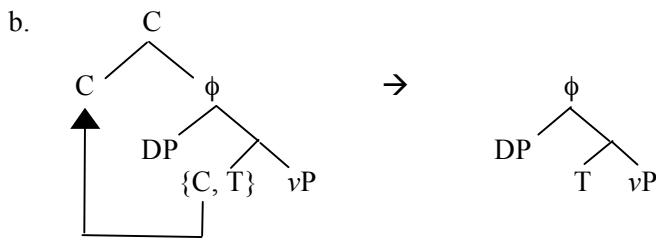
<Chomsky 2014 の EPP 分析>



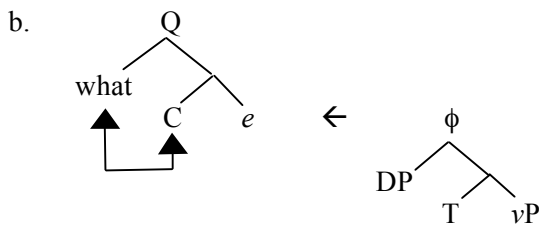
★ ‘weak’である主要部とは？ どのような素性の共有が labeling に寄与するのか。

- (143) a. 豊富な ϕ 情報を有しない機能範疇 (C, D)
- b. 主要部移動 (素性継承) および 格の与値は、素性共有の構造を形成する。

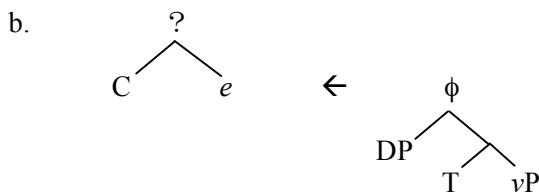
(144) a. John thinks that Mary was in London



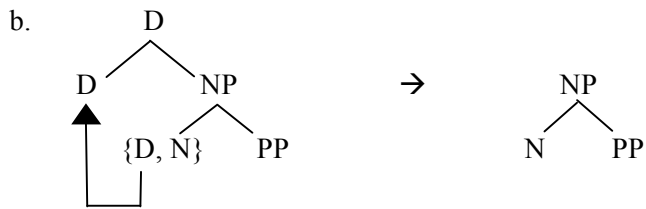
(145) a. John bought something, but I don't know what



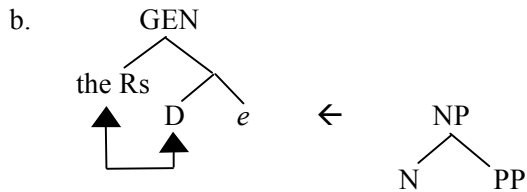
(145) a. *John said he bought something, but I don't know whether



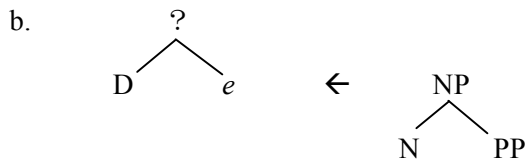
(146) a. the destruction of the city



(147) a. I witnessed the barbarians' destruction of a city, and also the Romans'



(148) a. *I bought the book about biotechnology, but I haven't read the



5. まとめ

★ 1990年代の日本語削除現象分析

N' 削除、VP 削除、スルーシング

項省略からパラメターの追究へ ... 一致パラメター (Kuroda 1988) に起因する可能性

★ 新たに生じた経験的諸問題

スルーシングの有無 (Takita 2009)

演算 - 変項関係と項省略 (Takahashi 2008, Funakoshi 2013, Aoyagi and Ishii 1994)

数量詞句の有無 (Watanabe 2010)

★ Labeling メカニズムによる削除現象の (部分的) 分析の可能性

参照文献

青柳宏 (2006) 『日本語の助詞と機能範疇』、ひつじ書房、東京.

Aoyagi, H. and T. Ishii (1994) "On NPI Licensing in Japanese," *Japanese/Korean Linguistics* 4: 295-311.

Carlson, G. (1987) "Same and Different: Some Consequences for Syntax and Semantics," *Linguistics and Philosophy* 10: 531-565.

- Chomsky, N. (2000) "Minimalist Inquiries: The Framework." In R. Martin, D. Michaels and J. Uriagereka (eds.), *Step by Step: Essays on Minimalist Syntax in Honor of Howard Lasnik*, Cambridge, Mass.: MIT Press, 89-155.
- Chomsky, N. (2013) "Problems of Projection." *Lingua* 130: 33-49.
- Chomsky, N. (2014) "Problems of Projection: Extensions," unpublished, MIT.
- Fukui, N. (1988) "Deriving the Differences between English and Japanese: A Case Study in Parametric Syntax," *English Linguistics* 5: 249-270.
- Funakoshi, K. (2012) "On Headless XP-Movement/Ellipsis," *Linguistic Inquiry* 43: 519-562.
- Funakoshi, K. (2013) "Disjunction and Object Drop in Japanese," *Tampa Papers in Linguistics* 4: 11-20.
- Goro, T. (2007) *Language-Specific Constraints on Scope Interpretation in First Language Acquisition*, Ph.D. dissertation, University of Maryland.
- Hale, K. (1980) "Remarks on Japanese Phrase Structure: Comments on the Papers on Japanese Syntax," *MIT Working Papers in Linguistics* 2: 185-203.
- Harada, K. (1972) "Constraints on WH-Q Binding," *Studies in Descriptive and Applied Linguistics* 5, 180-206.
- Heim, I. (1982) *The Semantics of Definite and Indefinite Noun Phrases*, Ph.D. dissertation, University of Massachusetts, Amherst.
- Hinds, J. (1973) "On the Status of the VP Node in Japanese," *Language Research* 9.2: 44-57.
- Hoji, H. (1990) "Theories of Anaphora and Aspects of Japanese Syntax," unpublished, University of Southern California.
- Hoji, H. (1998) "Null Objects and Sloppy Identity in Japanese," *Linguistic Inquiry* 29: 127-152.
- 神尾昭雄 (1983) 「名詞句の構造」、井上和子編『日本語の基本構造』、三省堂、東京、77-126.
- Kim, S.-W. (1999) "Sloppy/Strict Identity, Empty Objects, and NP Ellipsis," *Journal of East Asian Linguistics* 8: 255-284.
- Kitagawa, C. and C. Ross (1982) "Prenominal modification in Chinese and Japanese," *Linguistic Analysis* 9: 19-53.
- Kuno, S. (1973) *The Structure of the Japanese Language*, Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Kuno, S. (1978) "Japanese: A Characteristic OV Language," in W. P. Lehmann (ed.), *Syntactic Typology*, Austin: University of Texas Press, 57-138.
- Kuroda, S.-Y. (1965) *Generative Grammatical Studies in the Japanese Language*, Ph.D. dissertation, MIT.
- Kuroda, S.-Y. (1988) "Whether We Agree or Not: A Comparative Syntax of English and Japanese," *Linguisticae Investigationes* 12: 1-47.
- Lobeck, A. (1990) "Functional Heads as Proper Governors," *NELS* 20: 348-362.
- Murasugi, K. (1991) *Noun Phrases in Japanese and English: A Study in Syntax, Learnability and Acquisition*, Ph.D. dissertation, University of Connecticut.
- Nishiyama, K, J. Whitman, and E.-Y. Yi (1996) "Syntactic Movement of Overt Wh-Phrases in Japanese and Korean," *Japanese/Korean Linguistics* 5: 337-351.
- Oku, S. (1998) *A Theory of Selection and Reconstruction in the Minimalist Perspective*, Ph.D. dissertation, University of Connecticut.

- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』、大修館書店、東京。
- Otani, K. and J. Whitman (1991) “V-raising and VP-ellipsis,” *Linguistic Inquiry* 22: 345-358.
- Perlmutter, D. (1972) “Evidence for Shadow Pronouns in French Relativization,” in P. M. Peranteau, et al. (eds.), *The Chicago Witch Hunt*, Chicago Linguistic Society, University of Chicago, 73-105.
- Reinhart, T. (1991) “Elliptic Conjunctions - Non-Quantificational LF,” in A. Kasher (ed.), *The Chomskyan Turn*, Oxford: Blackwell, 360-384.
- Richards, N. (2003) “Why There is an EPP,” *Gengo Kenkyu* 123: 221-256.
- Rooth, M. (1992) “A Theory of Focus Interpretation,” *Natural Language Semantics* 1: 75-116.
- Saito, M. (1985) *Some Asymmetries in Japanese and their Theoretical Implications*, Ph.D. dissertation, MIT.
- Saito, M. (1989) “Scrambling as Semantically Vacuous A'-movement,” in M. Baltin and A. Kroch, eds., *Alternative Conceptions of Phrase Structure*, Chicago: University of Chicago Press, 182-200.
- Saito, M. (2003) “Notes on Discourse-based Null Arguments,” presented at Japanese/Korean Linguistics Conference 13.
- Saito, M. (2004) “Ellipsis and Pronominal Reference in Japanese Clefts,” *Nanzan Linguistics* 1: 21-50.
- Saito, M. (2007) “Notes on East Asian Argument Ellipsis,” *Language Research* 43: 203-227.
- Saito, M. and K. Murasugi (1990) “N'-deletion in Japanese: A Preliminary Study,” *Japanese/Korean Linguistics* 1: 285-301.
- Sener, S. and D. Takahashi (2010) “Argument Ellipsis in Japanese and Turkish,” *MIT Working Papers in Linguistics* 61: 325-339.
- Shibata, Y. (2013) “Negative Structure and Object Movement in Japanese,” unpublished, University of Connecticut.
- 篠原道枝 (2004) 「日本語の削除現象について」、南山大学人類文化学学科卒業論文。
- 篠原道枝 (2006) 「日本語における項削除に関する考察」、南山大学大学院言語科学専攻修士論文。
- Takahashi, D. (1994) “Sluicing in Japanese,” *Journal of East Asian Linguistics* 3: 265-300.
- Takahashi, D. (2008) “Quantificational Null Objects and Argument Ellipsis,” *Linguistic Inquiry* 39: 307-326.
- Takahashi, D. (2014) “Argument Ellipsis, Anti-agreement, and Scrambling,” in M. Saito (ed.), *Japanese Syntax in Comparative Perspective*, New York: Oxford University Press, 88-116.
- Takita, K. (2009) “‘Genuine’ Sluicing in Japanese,” presented at CLS 45.
- Watanabe, A. (2010) “Notes on Nominal Ellipsis and the Nature of *no* and Classifiers in Japanese,” *Journal of East Asian Linguistics* 19: 61-74.
- Xu, L. (1986) “Free Empty Category,” *Linguistic Inquiry* 17: 75-93.